

行政の窓

平成 24 年度北海道木材需給見通しについて

平成 24 年度北海道木材需給見通しを取りまとめたのでお知らせします。

1. 需要

23 年度は、東日本大震災等による影響からパルプ需要が落ち込む一方で、製材需要の回復が予想されることから、総需要量としてはほぼ 22 年度実績並みの 697 万 m³ となる見込みです。また、24 年度においても、紙需要の低迷によりパルプ需要の回復が見込めないことから、23 年度比 1% 減の 688 万 m³ となる見通しです。

なお、道内の木材総需要量に占めるパルプ用材の割合は 53.9% であり、全国の 46.0% に比べて高くなっています。(全国数値は、林野庁公表「平成 22 年木材需給表(用材部門)」総需要量に占めるパルプ・チップ用構成比による。)

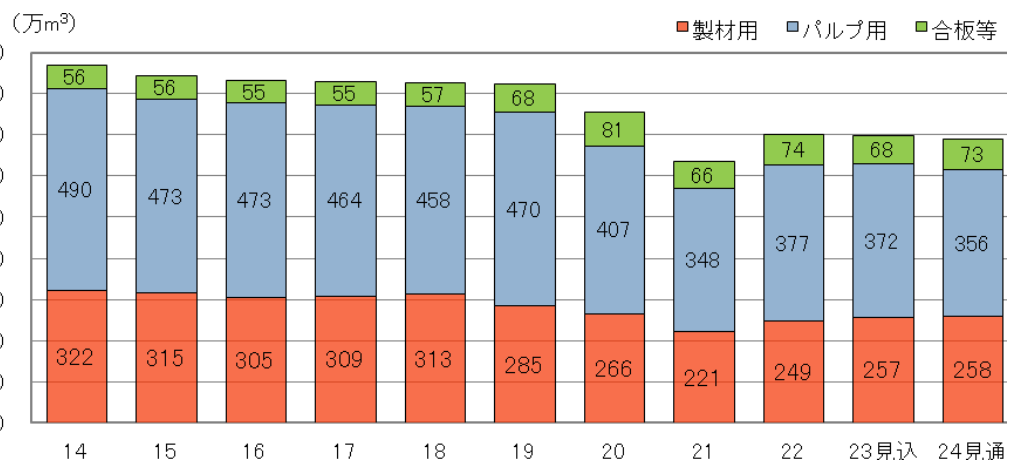


図 1 需要量の動向

2. 供給

23 年度は、輸入材(丸太・製材・集成材)供給量が増加するものの、輸入チップと道産材の供給量が減少すると予想されることから、総供給量は 22 年度並みの 697 万 m³ となる見込みです。また、24 年度は、輸入製材の供給量が増加すると予想されるものの、全体的には 23 年度を下回り、23 年度比 1% 減の 688 万 m³ となる見通しです。

なお、道産材供給率は、23 年度は輸入材供給量が増加する一方で道産材供給量が減少すると予想されることから、22 年度より 0.6 ポイント減の 55.4% の見込み、24 年度は道産材供給量、総供給量とも減少すると予想されることから、23 年度より 0.1 ポイント増の 55.5% の見通しです。

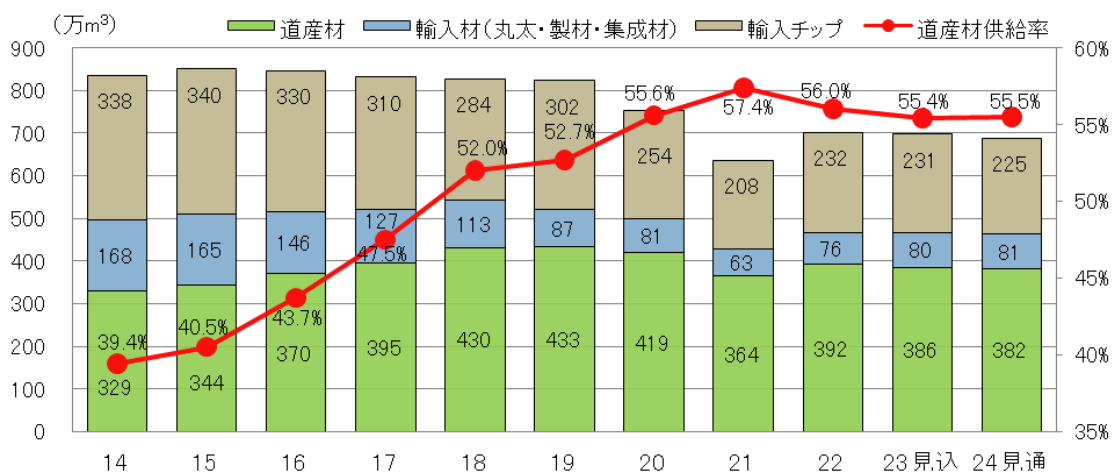


図 2 供給量の動向

※掲載数値は、原木消費量または原木換算値です。(北海道水産林務部林業木材課林業木材グループ)